

新しい文化財に！

松倉乃滝

平成2年8月11日(火)、上村富夫さん所有の山林に滝があるという報告を受け、雨の中、大日嶽山麓にある松倉乃滝を文化財保護協会の仲間と数人で上村氏の案内で見学をした。

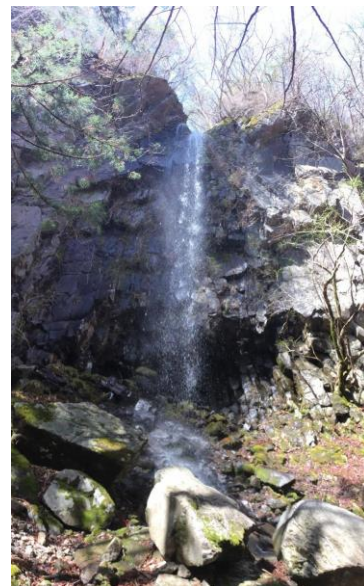
参加者は、男4人、女2人の6名ばかりの会員で、穴洞らから猪洞谷を通り西洞へ抜ける林道を通り、節谷のところに、上村さんが設置した「松倉乃滝」の標識(写真)から山登りを開始した。集合場所の高鷲町民センターから小雨が降りだし、登山中は本降りの雨になったため、普段は滝に水が流れていない松倉乃滝も水量が豊富に流れ壮観な感じがしたが、雨の中の登山は足場が悪いため悪戦苦闘して滝についた。

滝の正式名称はなく、県や市の名勝に指定されていない、高鷲では夫婦滝や駒ヶ滝のような有名な滝でなく、地元の人しか知らない落差31mの柱状節理の岩の上から流れ落ちる壮大な滝であった。普段は水がなく幻の滝となっているのは、下記に述べる「霧が滝」と同じであるが、今回は雨が多く、また土砂降りの中での見学であったため水量が多く、その落差は見事な滝であった。

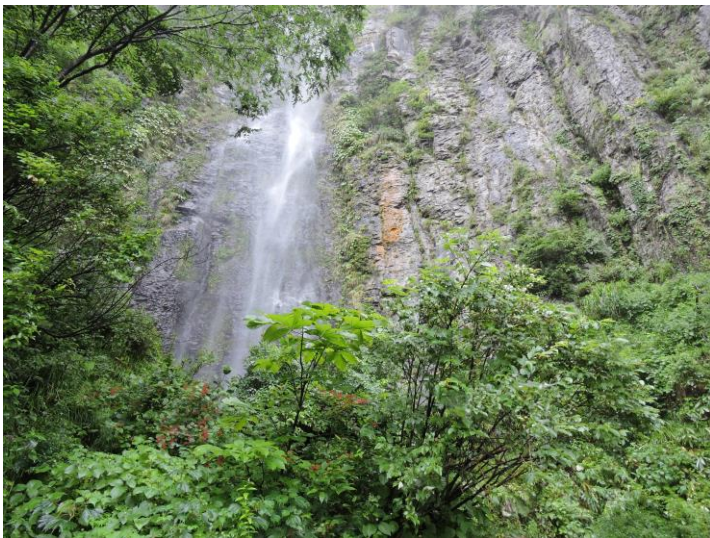
なお、「松倉乃滝」という名称は、上村氏が地名から名付けたもので、正式名称でないが高鷲文化財保護協会長としてこの滝を市の名勝に指定していただくよう推薦した。結果はどうかかわからない。

松倉乃滝

松倉乃滝入り口 参加会員



幻の滝：霧ヶ滝！紹介



白鳥町前谷の石徹白へ行く県道わきにある「霧ヶ滝」が、梅雨の時期だけ勇壮な姿を見せる。滝の高さ約60mで、垂直の岩壁を流れ落ちる。普段は水が少なく、秋・冬には枯れてしまうことさえある。水量は梅雨に入って一気に増え、激しい水しぶきを道路にまで飛び散り落下している。

県道は桧峠(標高950m)を越えて石徹白に向かう。近くには日本の滝百選の「阿弥陀ヶ滝」があることから、案内板はなくこの滝を知る人は少ない。県道を通るドライバーは険しい山道のカーブに集中し、滝を見る

ことなく次々と通過していった。(令和2年7月16日中日新聞朝刊中濃総合版より)

写真展開催

高鷲文化財保護協会では、高鷲の古い写真を集め保存に取り組んでいます。一部は開拓記念館の展示の中で紹介していますが、現在では1500枚ほどの写真が集まり、デジタル化して保存しています。今回、このデータを皆様に公開展示しようと決め、令和2年8月5日(水)から9月6日(日)までの1か月間、町民センターロビーで開催しています。入場料は無料です。懐かしいお友達の若い時の顔、学校の様子などがあります。が来場をお待ちしています。



高鷲村
写真展